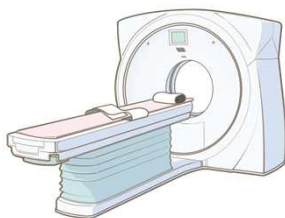


胸部CT検査

コンピューター断層撮影法 “Computed Tomography” の頭文字をとった略語をCTといいます。

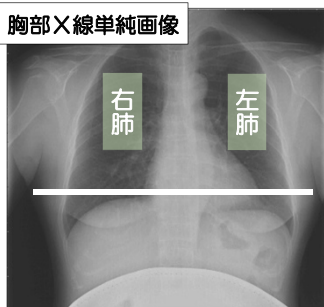
CT装置はX線を放出する管球とその検出器が対面に位置する構造となっています。これが受診者の周りを回転し、X線を360度の方向から照射します。体の中を通過した後のX線の減少度を測定し、コンピューターにて体の断層像（輪切り）として画像化することで異常の有無を調べる検査です。



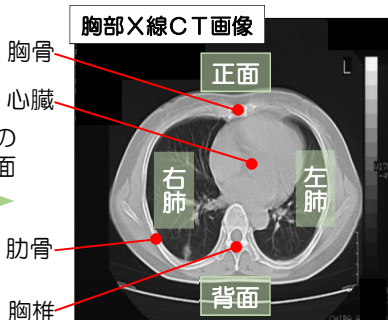
胸部CT検査は単純胸部X線検査に比べ肺や気管、気管支、大動脈の異常がはっきりとわかります。特に肺の小さながんの発見には有用であるといわれています。

《 胸部 X 線単純画像と胸部 X 線 C T 画像 》

胸部X線単純画像



この位置での
CT撮影断面



KKCではマルチスライスCT装置を使用して検査をしています。

〈 マルチスライスCT 〉

X線検出器を複数配列にしたものがマルチスライスCTです。例えば16列のマルチスライスCT装置であれば1回転で最大16スライスを一度に撮影することができます。

1mm以下の幅で多くの輪切り画像のデータをコンピューター処理することにより、これまででは不可能だった縦方向の画像も再構成できます。この技術により、多角的に、ターゲットとなる臓器を立体的に診ることが可能となりました。